くまはく NEWS LETTER Vol.11

清正から受け継いだ名城 加藤忠広と熊本城

飯田丸五階櫓 奇跡の「本石垣」復旧記念

2023年10月14日(土)―12月17日(日)

熊本博物館
KUMAMOTO CITY MUSEUM

2023年11月

■ 企画展案内
　清正から受け継いだ名城　加藤忠広と熊本城
■ 特別展報告
　冨田伊織　新世界「透明標本」展
■ パネル展報告
　SL69665号 100歳記念「写真パネル展」
■ イベント報告
　第15回「地質の日」企画　身近に知る「くまもとの大地」
　清和村自然観察会
■ 活動報告
　学芸員実習
■ 資料紹介
　《有栖川宮田原坂の戦い督戦之図》

肥後の見張り番
しゃちべえ

活動報告

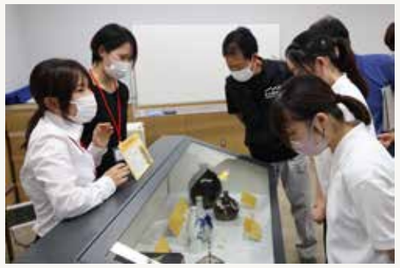
学芸員実習

2023年8月23日（水）～8月28日（月）

学芸員資格取得を目指す学生を対象として、当館では学芸員実習の受け入れを毎年夏季に行っております。学芸員が勤務する現場において、学芸業務（収集保管、調査研究、教育普及…）など博物館の実務を学ぶ実習で、8月23日（水）から28日（月）までの6日間で実施しました。

本年は人文系４名、自然系６名、合計１０名が実習に参加。例年と同じく、実習生は各専攻に合わせて、当館学芸員の講義を受講しました。座学あり、体験あり、プラネタリウムでの接客実習あり…。当館ならではの実習内容となっています。最終日には人文、自然系それぞれで実習生グループによる展示発表を行っていただきましたが、いずれも力作揃い！展示に対するコメントなども伝え、我々学芸員も刺激を受ける部分が多かったように思います。実習期間中は連日猛暑が続きましたが、受講生は全員無事に実習を終えることができました。誠におつかれさまでした。担当者は来年度の実習に向け、今年の反省をしっかり行いたいと思います。

（歴史担当：木山）



資料紹介

《有栖川宮田原坂の戦い督戦之図》

絹本着色・額装　83.2×140.2　近代　熊本城顕彰会所蔵（当館寄託）

①の画面右側、石垣の上には軍服を着た男性が4名おり、その傍らには大砲が配備されています。彼らは眼下で繰り広げられる田原坂での戦いの様子を見ています。双眼鏡を手に取り戦況をつぶさに観察しているのは、西南戦争で政府軍征討総監を務めた有栖川宮熾仁親王（1835―1895）です。

この場所は木葉山の南麓に位置する高台で、南北朝時代にはこの地を治めた宇都宮氏の居城があったと伝えられ、現在は西南戦争遺跡の一つ「有栖川宮督戦の地」となっています。同地には昭和18年（1943）10月に「西南戦蹟顕彰会」が建立した「征討総督有栖川宮御督戦阯」の碑があります（②）。ここからは、西南戦争で激戦地となった田原坂や二俣、横平山一帯が見渡せます。①の画面左奥に描かれているのは金峰山三ノ岳でしょう。

有栖川宮をはじめとした人物の表現や戦いの描写などは非常に細かく繊細で、作者の画力の高さがうかがえます。①の画面右下には作者の名前が記されていますが（③）、残念ながら現時点で作者の特定には至っていません。1文字目は「月」と思われるものの、2文字目が判読できません。印には「一月□卯□玉壺」の7文字が確認できますが一部は判読できません（□は判読不明文字）。作者は一体誰なのか…引き続き調べたいと思います。　（美術工芸担当：竹原）

▲資料①

▲資料②

▲資料③

熊本博物館
KUMAMOTO CITY MUSEUM

くまはくNEWS LETTER　Vol.11
発行　熊本博物館
〒860-0007　熊本県熊本市中央区古京町3-2
TEL. 096-324-3500　FAX.096-351-4257
kumamoto-city-museum.jp

企画展案内

2023年度熊本博物館秋季企画展（飯田丸五階櫓「奇跡の一本石垣」復旧記念）

清正から受け継いだ名城ー加藤忠広と熊本城ー

2023年10月14日（土）～12月17日（日）

平成28年（2016）熊本地震により甚大な被害を受けた熊本城。被災直後、「奇跡の一本石垣」として有名になった飯田丸五階櫓を支えていた石垣が、7年余りの歳月を経た令和5年（2023）末に蘇ります。

この石垣は加藤清正の息子、忠広の時代に築かれたことが被災後の調査・研究で確定しました。現在目にすることができる熊本城跡の原型が忠広時代に形作られたことは意外と知られていません。

本展は、未曽有の地震被害を受けたことで、はっきりとわかってきた特別史跡熊本城跡に遺された石垣の構築履歴やその価値、特に全国的に有名な加藤清正とその後の熊本城主細川家の狭間で、あまり注目されてこなかった加藤忠広とその時代の熊本城を語る資料に焦点をあてます。また、熊本城と肥後国を守った加藤家時代の支城から出土した瓦を一堂に展示します。

（考古担当：下高）

特別史跡熊本城跡小天守跡出土瓦

熊本城本丸上段 二様の石垣

特別展報告

冨田伊織　新世界『透明標本』展

2023年7月15日（土）～9月3日（日）

夏季特別展として、「冨田伊織　新世界『透明標本』展」を開催しました。透明標本とは、透明化した筋肉の中に赤く染色した硬骨と青く染色した軟骨が透けて見える骨格標本で、その見た目は単に学術標本にとどまらず「芸術作品」とも言える美しさです。会場は、作製法や進化などについて紹介し、透明標本を学術的観点から解説する部屋、暗い空間に配置した透明標本に様々な色の光を当て音と映像も組み合わせて演出された幻想的な部屋、大きな展示ケースにいくつもの標本を並べて透明標本を芸術作品として楽しむ部屋の、3つに分けて展示しました。学べる展示と感覚的に楽しめる展示が同居しており、多様な年齢層の方々が、いずれもじっくり時間をかけて観覧する様子が見られました。そのほか、多数の標本が入ったケースを3つ配置したお絵描きコーナー、高精細画像のタペストリーや大型写真パネルの展示もスケッチや記念撮影をする方で常ににぎわっていました。今回の展示では、4万人を超える方にご来場いただき、1万人目と3万人目にはセレモニーを行うこともできました。「標本」でありながら、学びだけでなく生命感と美を感じられる展示であった点に多くの方々からの支持が得られていたようです。

（動物担当：清水）

パネル展報告

SL69665号　100歳記念「写真パネル展」

2023年1月11日（水）～5月14日（日）

今もなお、堂々とした風格で熊本博物館の屋外展示場に佇む蒸気機関車69665号（くまはくSL）は、昭和年間に30年以上も豊肥本線を走っていた熊本にゆかりの深い貨物用車両です。廃車後、当館が現在地（熊本城三の丸地区）に新築移転して以来ずっとこの場に鎮座し、多くの来館者に親しまれてきました。その機関車が、今年（令和5年）1月に満100歳を迎えたことを記念して写真パネル展を開催しました。現役時代の雄姿や廃車・移設時の様子、屋外展示場での姿を記録した写真の数々を「あの日あのとき：思い出の一枚」と題して披露。当館所蔵の写真だけでなく広く一般の方々にもデータ提供を呼びかけ、全90枚以上を集めました。

今回の写真パネル展をとおして、「実物展示」に向けて尽力された当時の関係者の思いや願いの一端に触れるとともに、今後も「くまはくSL」をはじめ、貴重な資料や文化財を大切に守り伝えていこうとする意識高揚のための一助になったものと思います。

（理工担当：山口）

イベント報告

第15回「地質の日」企画　身近に知る「くまもとの大地」

2023年5月21日（日）

5月21日（日）、熊本博物館にて地質の日イベントを開催しました。これまで熊本では毎年「地質の日」（5月10日）に近い時期に合わせて、県内の博物館・大学・地質業協会・地学教育団体・ジオパークなどが合同でイベントを企画しており、今回で15回を数えます。近年は新型コロナウイルスの流行もあり、なかなか揃って現地開催ができていませんでしたが、今回は久々に実行委員会加盟館が一堂に集まって実施することができました。恐竜の全身骨格や県内の化石、岩石、地盤、防災減災、地下水に関する展示のほか、化石のレプリカや缶バッチづくり、砂鉄探し、岩石標本づくり、砂金採集といった体験ブースも多く出展され、会場内は終日多くのお客様でにぎわっていました。

（地質担当：南部）

清和村自然観察会（子ども自然学び教室）

2023年7月23日（日）

今年の夏休み最初のイベントは自然観察会。参加者のみなさんと共に大型バスに乗って清和村に向かい、観察会を行いました。移動中のバスでは、通過中の地形の解説や植物の観察ポイントなどを学芸員が紹介。到着後の休憩時間は昼食もそこそこに、早速あちらこちらでミニ観察会がスタートしていました。周辺の森林や道端をよーく観察しながら歩き、オオスジコガネやジャノメチョウ、ナワシロイチゴやウツボグサなど、季節の生きものたちとたくさん出会うことができました。事前の下見で観察できていたクワガタたちは、当日なぜかほとんど現れず…。一緒に歩いていると、参加者のみなさんが次第に生きものを素早く見つける目になっていることを感じました。今後も身近な自然に興味を持ってもらえたら嬉しく思います。来年の観察会もぜひお楽しみに。

（植物担当：山口）